

【基本目標】3. 地域育ち

【基本施策】(1) 地域における子育て支援サービスの充実

具体的事業名	事業内容	所管	方向性または目標	事業対象	R2	評価	R2事業実施上の課題	R3 目標	R3 事業の進捗状況
トキの島 ファミリーサポートセンター事業	子育てをお手伝いしてほしい方（依頼会員）と子育てをお手伝いしたい方（提供会員）が会員登録し、お互いに助け合う地域の子育てサポート組織です。提供会員の人材育成を行うと共に制度の周知を図る。	子ども若者課（子育て支援係）	会員のニーズを把握しながら、サービス内容の改善、増加など事業拡大に取り組む。会員がサービスを利用しやすい環境を作るため、研修会や会員交流の開催、利用料の助成を引き続き行う。	子育てをお手伝いしてほしい方（依頼会員） 子育てをお手伝いしたい方（提供会員）	○	研修会1回実施。送迎、預かりを主としたサービスの利用があり、子育て世代の負担軽減に繋がった。	会員登録数は増加傾向にあるが、コロナ禍の影響もあり活動数が減少した。また、地区別に会員数の偏りがあるため、会員数の少ない地区の会員募集について検討が必要。	研修会1回 交流会1回	○会員登録数 126人 依頼会員 68人 提供会員 45人 両方会員 13人 ○活動件数 延べ36件（R3. 8月末現在）
放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）	共働きやひとり親家庭などの子どもが楽しく有意義に過ごせる放課後の生活の場所です。児童指導員が、健康・安全・情緒面に配慮しながら遊びを主とする自主的な活動を指導します。	子ども若者課（子育て支援係）	地域のニーズや利用者の増減など利用実態に即した施設の整備・整理を計画的に実施する。	昼間帰宅しても保護者のいない留守家庭の小学生	◎	佐和田児童クラブ改修移転（6月）、小木児童クラブ改修移転（11月）。環境改善を図り、児童福祉の向上に繋がった。	各地域のニーズを把握しながら、学童未整備地区の整備を進める必要がある。	各地域のニーズを把握し、学童未整備地区の整備を検討。	児童クラブ 13か所（公立12、私立1）
子育てエンジョイカード事業	18歳までの子どもを育てている家庭へ、協賛店で提示すると、割引や特典などにサービスを受けることできる「子育てエンジョイカード」送付している。家庭の経済的負担の軽減を図り、地域全体で子育てに取り組む機運の醸成を図ります。	子ども若者課（子育て支援係）	幅広い協賛店を確保することにより、利用促進を図る。	18歳までの子どもを養育する世帯	△	大型店や新規協賛店の確保はできなかった。	大型店は独自のサービスを確立しており、協賛店獲得が困難。また、行政改革推進委員会で廃止の評価を受けたため、事業の継続について検討が必要。	事業の継続・廃止の検討を行う。	引き続き、事業の継続・廃止を検討する。

【基本施策】(2) 保育サービスの充実

具体的事業名	事業内容	所管	方向性または目標	事業対象	R2	評価	R2事業実施上の課題	R3 目標	R3 事業の進捗状況
通常保育事業（保育整備事業）	良質な保育環境の整備に向け、保育園統合計画及び民営化計画に基づき、計画的な整備を進めます。	子ども若者課（園児支援係）	相川保育園、あいかわ幼稚園統合について、検討している。	保育園、幼稚園	◎	基本設計実施	スケジュール管理	令和4年4月1日の開園を目指す。	相川保育園、あいかわ幼稚園を統合した幼保連携型認定こども園を新設している。
休日保育事業	日曜、祝日等に保護者の就労等により保育に欠ける児童の保育を行う	子ども若者課（園児支援係）	令和元年度より実施していない。	市内の公立・私立保育園に在籍し、日曜・祝日に保育を必要とする児童	△	必要性について検討する。	必要性や実施する場合、職員配置が対応可能かを検討していく。	—	実施していない。
病後児保育	病状が安定し回復に向かっている子どもを専用施設で一時保育します。病院と連携し、保育士や看護師などが、保育を担当します。	子ども若者課（園児支援係）	児童の保育及び看護を行い、保護者の子育て及び就労の両立を支援し、児童の健全な育成を図る。	生後6ヶ月経過後から小学6年生までの児童で病気の回復期であり、集団生活が困難で、利用について医師の同意を得ている。	◎	利用定員は1日6人と定めているが、1日の最高利用人数は3人であったため充足している。	利用者が少数だが、必要とする保護者はいるので維持していく。	利用者が少数だが、必要とする保護者はいるので維持していく。	登録者数 36名 利用者数 7名（R3. 8月末現在）
病児保育	病状が回復に至らない子どもを専用施設で一時保育します。病院と連携し、保育士や看護師などが、保育を担当します。	子ども若者課（園児支援係）	実施していない。	—	△	必要性について検討する。	必要性や受入体制について、検討していく。	—	実施していない。

具体的事業名	事業内容	所管	方向性または目標	事業対象	R2	評価	R2事業実施上の課題	R3 目標	R3 事業の進捗状況
保育料2人目以降無料化事業	子育て家庭の就労と子育ての両立を支援するため、多子世帯の経済的負担の軽減を図ります。在園児2人目以降の無料化を実施するとともに、対象児童の拡充を検討していきます。	子ども若者課（園児支援係）	兄弟が小学1～3年生の年齢にいる場合、在園児の保育料無料、同時在園でも2人目以降は無料について、該当世帯に対し減免を行っている。	保育園児	◎	保護者の負担軽減を図ることができた。国の動向を見ながら継続していく。	令和元年10月から幼児教育・保育無償化制度が始まり、対象外である0～2歳児の市民税課税世帯について、検討が必要である。	子育て世帯の経済的負担軽減を図るため、減免を継続していく。	兄弟が小学1～3年生の年齢にいる場合、在園児の保育料無料、同時在園でも2人目以降は無料について、該当世帯に対し減免を行っている。
副食費無償化事業	給食について、公立、私立問わず一定の質を確保するため、幼児教育・保育の無償化に伴い保護者の実費負担が基本のなった副食費について佐渡市が負担する。	子ども若者課（園児支援係）	給食提供における副食にかかる食材料費は市が負担する。	保育園児	◎	保護者の負担軽減を図ることができた。国の動向を見ながら継続していく。	副食にかかる食材については、一定の質の確保をし、提供している。	給食の一定の質を確保するため、市の負担を継続していく。	給食提供における副食にかかる食材料費は市が負担している。

【基本施策】（3）地域との連携ネットワーク

具体的事業名	事業内容	所管	方向性または目標	事業対象	R2	評価	R2 事業実施上の課題	R3 目標	R3 事業の進捗状況
しまびと元気応援団	「子どもは宝」をキーワードとして子育て、親育て、地域づくりについて関係機関、団体との連携を図ります。	市民生活課（健康推進室）	市民協働の健康づくり、地域づくり。佐渡市の「健康」の現状を知り、親子の交流会の実施、親子の料理教室、むし歯予防の紙芝居等、自分たちでできることを実施。	子育て中の親とその子ども 子育てを支援する人	○	コロナの影響で活動は制限されたが、できる範囲で活動を継続した。かわら版で活動を周知することができた。	新規加入者を増やすため、活動の周知と地域に広げていくための工夫が必要。	しまびと元気応援団の活動をPRする。関係機関、団体との連携を図る。	・R3年度、しまびと元気応援団グループ数：24 うち、子育て関係のグループ数：6 ・年2回かわら版を回覧にて周知。 ・市のHPにかかわら版を掲載。今後親子クッキングのレシピを掲載予定。
青少年健全育成活動事業	地域・家庭・学校が連携・協力し、青少年の健全育成に努めます。（佐渡市子ども会活動の充実）	社会教育課	「毎月第3日曜日は家庭の日」を推進し、子どもたちが家庭を考え、家族とふれあう機会を創出する。	各地区青少年健全育成協議会 各地区子ども会連絡協議会	○	「家庭の日」標語コンクールを実施し、924作品の応募があった。しかし、応募数は市内の小中学生数の3割にも満たなかったため、周知方法や実施形態を再検討する必要がある。	家庭の日標語コンクールで応募のあった作品を活用できていないため、家庭の日の啓発活動に活用する。	「家庭の日」標語コンクールを開催し、佐渡市内の子どもたちが家族や家庭を考える機会を創出する。	家庭の日の周知については各地区公民館活動にてのほりの設置や市報さど11月号への掲載により周知を図る。
学校・家庭・地域の連携促進事業	地域の人々が協働で教育支援に取り組む仕組みづくりを推進し、地域力の強化と地域コミュニティの活性化を図ります。	社会教育課	幅広い地域住民や団体等の参画により、地域の教育力の向上を図り、子ども達の社会性の向上や社会を生き抜く力を育む。また、地域人材を活用し、全ての保護者が安心して家庭教育を行える環境を整える。	小・中学校	○	研修会を2回実施したが、活動に繋がっていない。放課後子ども教室の実施校は4校でR1年度から増えなかったが、充実した活動はできた。実施校が増えるよう、事業や活動内容を周知する必要がある。家庭教育支援チームで相談窓口を開設したが、年間の相談件数11件と少ない。	参画いただく地域住民が特定されており、幅広い地域住民の参画を得られていないため、活動に参加するよう呼びかける。学校教育課が行っている学校運営協議会と地域学校協働本部が連携した活動が少ない。家庭教育支援チームの認知度が低いいため、認知度を高める必要がある。	活動推進や地域コーディネーターの資質向上のため研修会の実施。放課後子ども教室を5校増え9校で実施。学校教育課と連携した、研修会を開催し理解と協力をお願いしている。家庭教育支援活動に、年間30組以上の親子が参加する。	地域と学校が連携・協働し、地域人材を活用しながら、子供たちのためにできる活動を計画し、実施している。また、放課後子ども教室は5校増え9校で実施。学校教育課と連携した、研修会を開催し理解と協力をお願いしている。家庭教育支援活動では、気軽に相談ができる環境づくり、親子体験活動等を実施している。
保育園地域活動事業	子どもと高齢者のふれあいの場を増やし、地域の活動を通して、乳児から高齢者までの異年齢の者が交流できる場をつくります。	子ども若者課（園児支援係）	子どもと高齢者のふれあいの場を増やし、地域の活動を通して、乳児から高齢者までの異年齢の者が交流できる場をつくります。	保育園児	△	異年齢の者とふれあう場を作ることが重要なので、継続して取り組む。	新型コロナウイルス感染症対策により実施できなかったが、子どもと高齢者のふれあいの場や地域活動での交流の機会をつくる。	地域活動を通して、異年齢の者と交流の場をつくる。	新型コロナウイルス感染防止対策のため、実施していない。

具体的事業名	事業内容	所管	方向性または目標	事業対象	R2	評価	R2事業実施上の課題	R3 目標	R3 事業の進捗状況
たからじまカレンダー作成事業	地域全体で子どもを育てるという意識をもち、祭りや、伝統芸能、ふれあいの場で見られる笑顔あふれる写真を募集し、カレンダーを作成します。	子ども若者課 (子育て支援係)	佐渡市のイベント(祭り、健診、ごみの日)1つのカレンダーでわかるようにする。	18歳までの子どもを養育する世帯	継	引き続き検討を行う。	R2事業実施上の課題 掲載イベントについて、関係各所との調整が必要である。	引き続き作成を検討する。	引き続き作成を検討する。

【基本施策】(4) 安心して外出できる環境の整備

具体的事業名	事業内容	所管	方向性または目標	事業対象	R2	評価	R2 事業実施上の課題	R3 目標	R3 事業の進捗状況
地域ぐるみの学校安全整備推進事業	通学路等における防犯体制、設備等を整備します。	学校教育課	「子ども110番の家」の活用など、通学路等における防犯体制、設備等を整備します。	小・中学校 児童生徒	○	子ども安全応援隊員12人を確保して地域の見守り活動を実施。	1校につき1人なので、広い校区全体を見守る負担は大きい。退任者の後任や新規での担い手がいない。	隊員数15人を確保。	・R3年度8月末現在の隊員数は、12人。 ・1人当たり、8時間/月の範囲内で活動。 (1月8時間で、一人当たり年間96時間)
子どもがつなく地域の居場所づくり事業 (旧子どもの居場所創設事業)	公共施設の空きスペースや、商店街の空き店舗・店舗内の空きスペース等を有効活用して、気軽に集まれる場づくりを進めます。	子ども若者課 (子育て支援係)	子どもから高齢者まで、楽しみ学べる交流の場として、事業実施団体へ補助します。	子育て中の親とその子ども、子育てを支援する人	△	支援者、利用者のニーズに合う事業として、見直さなければならなかったが、できなかった。	支援制度としての重要度は高いものの、実施団体にとって、経費負担が発生する本事業は、ハードルが高い。要綱について見直しの検討を行う必要がある。	子どもがつなく地域の居場所を創設。	補助事業者の募集を行ったが、申請がなかった。

【基本施策】(5) 仕事と子育ての調和

具体的事業名	事業内容	所管	方向性または目標	事業対象	R2	評価	R2 事業実施上の課題	R3 目標	R3 事業の進捗状況
ワーク・ライフ・バランスの普及(仕事と成果の調和)	男女が共に仕事と子育てをしながら安心して生活できるようワーク・ライフ・バランスの普及推進	地域振興課	子育てをしながら職業生活が安心して継続でき、自己実現が図られる職場環境づくりの普及を図るため、就労環境や働き方に関する周知・啓発活動を実施する。	市内事業所の人事担当者等	△	—	—	各種講習会、セミナー等への参加を促す。	コロナ感染症の状況を考慮し、国・県が実施するオンライン等での講習会、セミナーへの参加を促す。
子育て両立応援企業認証事業	子育て世代が仕事と育児及び家庭生活が両立できるよう職場作りに積極的に取り組む企業を認証します。	子ども若者課	企業名のPRや子育て世代のモチベーションアップ等の効果。企業のイメージアップによる人材確保の効果。		△	制度の構築はできなかった。	引き続き、必要性や効果について、関係機関と検討を行う。	関係機関と検討を行う。	引き続き、関係機関と検討を行う。